

せいりょう園

[発行] 社会福祉法人はりま福祉会 特別養護老人ホームせいりょう園

〒675-0016 兵庫県加古川市野口町長砂 95-20 TEL 079-421-7156 FAX 079-421-6422

平成28年 3月 第181号 年間購読料1,000円 (1部100円)

メール seiryoen@bb.banban.jp ホームページ <http://www.seiryoen.or.jp>

『一億総活躍社会』

—要介護や認知症の人も活躍できる社会への途を拓いて—

平成28年度は『社会福祉法人改革』の年です。「評議員会が議決機関」となって公益法人としての体制を整え、「理事会は執行機関」として経営責任を明確にし、「公益性の高い」組織と事業と資金を確保する為の改革が始まります。結果に責任を負う立場の理事は、名誉職では勤まりません。

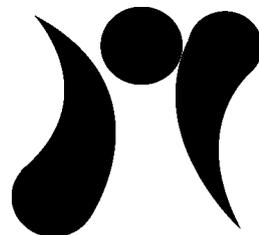
そして今、安倍政権の「新3本の矢」実現の為に『一億総活躍社会』への途が注目を集めます。「子育て支援」「介護離職ゼロ」は我々社会福祉法人の事業と密接に関連し、高齢者も子供も障害者も共に地域の一員として暮らす社会を目指す「地域包括ケアシステム」においては、老いて人生を締め括る営みと、新たに生れる命を育む営みは、「表裏の関係」を構成します。

老いの身が、要介護になり認知症になってやがて最期を迎えるのは「自然の摂理」に添う変化であり、動物の中で人間だけが「仲間に身を任せて」最期を迎えます。「吾身の老いと死」の過程を他者に委ねて、人間のみが持つ『思想と社会性』を育み養い、「新たな命の誕生と成長」を支えて歴史が続いて来た、と考えるのが自然で妥当な帰結です。「老いて死に逝く命」が、人間固有の「思想と社会性」の「源」であり、要介護や認知症のお年寄りは「健康や長寿への個人的願望」を超えて、吾身の「介護と看取り」を他者に委ねる事で、社会で十分に「活躍し貢献」しているのです。

重度の障害を持って生まれる子供達は、自然界で生命が発生する過程で少数ながらも必ず生じる「不規則な変化の帰結」として誕生し、多様に变化する自然に対して、人間が柔軟に応じて社会を構成して思想と社会性を育み、永く歴史を続けてきた「原点の姿」です。

糸賀一雄先生は、重度の障害を持って生まれた子供達が、持てる力のベストを尽くして懸命に「生きている喜び」を顕す姿を視て、「この子らを世の光に」と言われました。人が社会で生きる上で「最も重要な価値」を素直に現す姿が『多様で柔軟な人と社会』への「道標」だと示唆されたのです。

(次ページへつづく)



(前ページのつづき)

『彼らの存在を否定し、生まない事を求める社会』は「いびつ」で「硬直化」して、永くは続きません。『ナチスドイツ』がその典型です。

最近、高齢者も障害者も社会で活躍できる場を確保する為に、「就労支援」が盛んに行われます。しかし、「一般的な就労」にも「福祉的な就労」にも適応できない人々が、少数ながらも必ず存在します。重度の要介護高齢者や認知症の人・重症心身障害者などは、『存在する事自体』が社会での活躍であり貢献であって、『多様で柔軟な社会』への「道標」と見る立場を、社会福祉法人の「公益性の原点」として永く引継ぎたい、と切に願います。

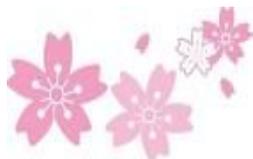
せいりょう園 渋谷 哲

【せいりょう園 特養待機者状況 平成28年 3月11日現在】

○入所判定済み者	227人				
【内訳】要介護1	31名	要介護2	52名	要介護3	51名
要介護4	49名	要介護5	42名	不明	2名
【希望する特養】	地域密着型特養のみ	102名			
	ユニット型特養のみ	24名	両方	101名	

特養入所条件については、県の「入所判定マニュアル」に基づき、要介護度3以上の方が対象となります。待機中の方で介護度変更した方、要介護度1・2であるが、在宅での生活が困難な方には、相談を受け付けています。

お急ぎの方は、お手数ではございますが、近況をお知らせ下さい。



厨房だより

管理栄養士 田村愛弓



今年も桜の季節が近づいてきました。皆様が住まれている地域でも、徐々に桜の蕾が膨らみ始めていることと思います。せいりょう園の敷地内や近所の池周辺にも毎年見事な桜が咲き誇り、道行く人の心を和ませてくれます。いつもは家で過ごす方でも、一度は花見がてら散歩にでかけようと思われるのではないのでしょうか。

この度の厨房だよりでは食事の話から少し離れて、「運動」についてお話したいと思います。「運動」というと嫌がられたり、たくさん動かなくてはいけないイメージをお持ちの方も多いと思います。ですが少しの散歩でも身体にはとても良い効果があります。身体的には、骨に適度な刺激が伝わることで骨形成が促されるといわれます。また、太陽の光を浴びることで人に欠かせないビタミンを体内で生成することもできます。精神的には、外の空気に触れて呼吸し、緑を見たり触れたり、太陽の光を浴びることで日頃体内に溜めているストレスを解消することもできます。

自分では気づいていなくとも、身体は疲労を抱えているものです。食事だけ、運動だけでは健康な身体を維持できません。少しずつでも運動と食事の両方を意識していき、身体のメンテナンスをしていきましょう。



サービス付高齢者向け住宅での暮らしについて

サービス付き高齢者向け住宅とは、民間事業者等により運営され、都道府県単位で認可、登録されたバリアフリー対応の賃貸住宅です。相談員が安否確認や生活していくうえでの相談を受けて安心へと繋いでいくサービスを提供します。

せいりょう園のサービス付き高齢者向け住宅（以下；サ高住）は「リバティかこがわ」と「自愛の家さくら」が敷地内に建っています。

職員より「リバティかこがわ」で生活されている方の話がありました。「Aさんは、若い頃に脳腫瘍の手術で右半身麻痺となりました。夫が亡くなった後、『独りでは暮らせない』と感じ、70歳頃に自宅を手離して、サ高住へ転居することを決断されました。自分で出来る事は何でも行い、テレビなどで知り得た情報を生活の中に取り入れて、自分なりに工夫して快適に暮らしています。身体は動かしにくい状態ではあるが、居室で自分で調理を行い、お風呂も入っています。水回りの掃除など本当に出来難い部分のみ、ヘルパーに助けて貰いながら生活しています。他者と交流を持つ事よりも、一人の自由な暮らしを好まれ、エンディングノートを準備して、最期の時まで自分らしく生活していこうと考えておられます。」

サービス付き高齢者向け住宅で暮らす事を選択して、家族や親しい人達との関わりを持ちながら、一日を通してのサービス提供、夜間の介護や安否確認などを含み、小規模多機能型居宅介護に登録して介護サービスが受けられる制度があります。現在、せいりょう園での小規模多機能では要介護5から要支援2までの利用者が登録されています。参加者より、介護度が重度になると出て行かなければならないのは困るが、サ高住で結構、要介護度の高い人が生活出来るのが良いとの感想を頂きました。

参加者の中で、小規模多機能サービスを利用しながら、サ高住「自愛の家さくら」で暮らしている利用者の御家族より、入居までの経過、入居後の生活の話がありました。

「母は、1人暮らしなので、ある程度自分の事が出来る頃からサ高住への入居の話をしていましたが、やはり自宅を離れて住まいを移り住むことに拒否がありました。やがて認知症状の進行や身体機能の低下により、在宅で様々なサービスを使いながら生活していましたが、本人も困難さを強く感じ、私が初めに思い描いていたサ高住への入居とは違ったが、せいりょう園でのサ高住では、どのような状態でも受け入れ出来るとの事で決断しました。小規模多機能サービスを利用しながら母は生活可能であることが分かりました。私自身、今後の生き方をどうしていくかを考える機会となりました。」との話を頂きました。

現在、病気や骨折などで入院して退院後、自宅での生活が困難な方々、介護老人保健施設や病院などの退所後の住まいとして、サ高住は受け皿に繋がっている傾向も見られます。しかし、体調不良にて自宅での生活が困難で、やむをえずという形での入居以外では、自宅があって今後を見据えて、サ高住に移り住むという覚悟は中々出来にくいことも事実です。

自分が老後、「どう暮らしていきたいのか?」「どのように暮らしていくのか?」ある程度は具体的に考えなければいけないと思います。

（老人介護支援センター）

※「介護についてみんなで語ろう会」は、毎月第4金曜日 14時～15時
リバティかこがわ2Fで行っています。皆様のご参加をお待ちしています。



ご縁（後編）

柔道整復師及び合気道師範、高御位神宮神職 西嶋盛彦

2014年8月から80歳を越え、盲目の鍼灸マッサージ師の橋本先生と同伴している奥様に高齢者に対する対応の手ほどきを受けながら、機能訓練指導員として、せいりょう園の施設を回る事になりました。

「ここは看取りを重視していて、病院で治らなかった人達が最後に来るような所で私達に園長も治療を望んでいるわけではない。私も最初は針を打ったり、置き針したりと色々やったけど、それで評価が高まるわけでもなく、いくらか良くなっても最終的には看取りに入っていく。入所者がその時だけでも気持ち良くなってくれたらそれでいいから・・・。」

その言葉を聞いて、今まで病院や他の治療院などで治らなかった患者を治す事に喜びを感じていた私としては、橋本先生がそういっても俺なら奇跡を起こせると信じて、此处で何が出来るかを模索しはじめます。

福島から帰ってきてからは、健康保険レベルでの対症療法では虚しさを感じていた事もあり、最低3回来院してもらう事を条件に成功報酬制の整骨院として、個人セミナー形式で身体（自然治癒力の根本になる脳幹等）・心（ストレス、トラウマ等）・食（添加物や食肉等）の話しを伝え、自分でもできる体操や心理療法、食生活の改善などをしてもらい、さらに見えない世界の力を借りてヒーリングを行っていました。

まず、誰にでもできる自然治癒力を高める簡単な体操として友人が広めていたライオンあくび健康法という口を大きく開け閉めする事で脳を活性化する体操を覚えてもらおうと入所者に伝え出すのですが、しばらくして大きな壁に当たります。整骨院の来院者であれば、その体操を毎日継続してもらう事と施術を併用する事で、他院で治らなかった腰痛など様々な症状が3回ぐらいの来院で治っていき、患者さんにはとても喜んでもらっていたのです。しかし、それを伝えても認知症のある方には中々理解してもらえず、その場でやってくれても自身でやってくれているかわからないこと。それでも、まだ会話が出来、字が読める方にその友人が雑誌に取材を受け掲載された時のコピーなど配り理解を深めてもらおうとしていると、一人の介護スタッフが、その配っていた資料に写っている友人の写真を見て、「この写真の先生、ここに来てましたよ。」との事。後に分かったのですが、その友人のお父さんがせいりょう園で看取られたそうです。こんな風にまたここに来た縁というのを感じて行きます。

他にも、ある入所者の施術をしながら、その家族の方と合気道の話をしていると、話が繋がって行き、なんとその夫婦は亡くなった父に以前指圧をしてもらった事があったとか・・・。

そういう状況の中、なんとか結果を出そうと、気功なども併用して施術しても、今まで整骨院で診てきた若い人達と違い、高齢者の身体機能を改善させるのがこんなに難しいものなのかと痛感します。若い人であれば、氣の流れを整えてあげるだけ改善される症状が、いくら氣を与えても私の氣が取られるだけなのです。思うように変化が出ず、私自身が体調を崩してしまい、それまでしていた兄が経営する健康商品取扱店の手伝い（ファイテン店長）も辞め、なんとか継続して機能訓練をやっていた時に一つの方向性を見出す出来事が起こります。

長年、機能訓練指導員で働いてきた橋本先生から、「私は目が見えないから、会話が出来なくなり、ベッドで寝たきりになってしまったら、もう何も出来ないけど、西嶋さんが何か出来そうだったら、施術してもらっていいから。」と伝えられていた事もあり、いままで施術して

いなかった方も診始めました。言葉話すこともできず、全身硬直し、胃ろうでつながれ、ベッドに寝たきりで常に苦しそうな方を観て、この方は死に対する恐れがあるから、それを取り除いてあげないといつまでも苦しむ続けそう・・・それで、耳元で ipod の癒し系音楽を流しながら、ほとんど触れるだけのヒーリングと、日常会話とともに、私の臨死体験の話などをして、死というものが、そんなに怖くない事を伝えだします。そんな事をしていると、今まで苦痛の表情だったのが、幾分おだやかになっていきました。そんな時に、顎が外れたという事で整復を頼まれました。それは問題なかったのですが、その数週間後、私達が休みの日曜日に再度顎が外れ、月曜日の朝に整復を頼まれた時には時間が立ち過ぎていました。顎の筋肉が固まってすぐに整復できず、午前の機能訓練が終わった最後に時間をかけて顎周辺の筋肉をほぐし、脱臼の整復をしました。整復が終わった後も、また口を開けて顎が外れる心配もあり、時間のゆるす限り、その方の横に居て見守ると、そんな苦しい後にも関わらず、表情も穏やかになっていきました。

そして、その翌朝、その方が亡くなった知らせを聞きます。

会話は出来ずとも、心がつながってきた感じがあったので、残念な気持ちもありましたが、やっと楽になれましたね、お疲れ様でした、と心から合掌する事ができました。

理学療法的な機能訓練も、もちろん必要な時はありますが、看取りを重視するこの施設では愛のある心のケアが一番必要だとその方に教えてもらったような気がします。

以前、ストレスとの関係を脳波測定器を使い研究をしていた時に色々分かかってきた事なのですが、ハワイで凶悪犯罪を起こした人が集まる収容所でホ・オポノポノというハワイの伝統的な癒し方法で精神に問題があった犯罪者が全て改善されたという実例があるのです。その手法は至ってシンプルで、その犯罪者の問題は全て私の責任で私の潜在意識の何が問題なんでしょう？と自身に問いかけ、「ごめんなさい、ゆるしてください、ありがとう、愛します。」と呪文のように心の中で言葉を言い続ける事です。

認知症があっても、問題なのは記憶力が低下して忘れる事ではなく、暴れたり、大声を出したり、といった事が問題で、その原因は潜在意識に残っている記憶であり、その問題になっている記憶を消去、クリーニングして行くと、その問題が軽減される事も分かってきました。しかし私一人の力では微力なので、皆さんにも協力してもらい、少しずつ、せいりょう園の環境、そして介護分野の問題を解決していければと、今は祈りの日々です。

皆さんも愛と祈りで一緒に奇跡を起こしましょう。

平成28年3月4日（金） 和太鼓



毎年来て頂くご夫妻に、和太鼓、詩吟、笛など9種類の演目を披露して頂きました。太鼓の音を聴きながら参加した皆さんは、鼓動を感じているようでした。最後に希望者には太鼓を叩かせて貰いました。介護職員も利用者に見守られながら、少し難しめのリズムを苦笑いしながら叩きました。



仏教講話 3月7日(月)



浄土真宗 本願寺派 寿願寺 西寺 正 住職

3月5日の啓蟄が過ぎ、春本番と思うばかりの暖かい一日となりました。本日の仏教講話は浄土真宗 本願寺派 寿願寺の西寺 正ご住職にお越し頂きました。西寺住職は以前24年10月にお出で頂きました。当時はまだ京都の大学で講師をされ大半を京都で過ごされてきました。昨年3月末に退職され、今は加古川町友沢に戻ってきておられます。お寺は毎年仲秋の候にフジバカマの匂いに誘われて『アサギマダラ』という名の美しい蝶が飛来してくるとお聞きしました。是非その頃に古刹を訪れてみたいと思います。

講話を始められる前に子供の頃からお世話になったというお知り合いの方を見つけられ自己紹介を含めたお話に花が咲きました。

60歳まで京都の中学で教師をした後、65歳まで京都の大学の講師をし、今年66歳になりました。今は友沢の寿願寺に常駐、寿願寺という名前は全国で一つだけ、願寿寺という名になるとたくさんあります。西寺という名字もよくある名字ではありません。どこからの由来かという、友沢には昔お寺が二つあり、真ん中におったお寺が中の寺、村の西側におったお寺が西の寺、そこからきたそうです。名前の正はお坊さんになった時に法名に釈という名をつけて釈恵正と言います。

「お寺で一番大事な物は何ですか？」と質問される。「鐘」という声が挙がりました。「鐘もですが、お掃除です。お掃除を徹底的にする、その象徴がお花です。突然に貰って嬉しい物はお花ですね。」仏様で大事な花という事で蓮の花の説明をされた。蓮の花は暑い時に朝早く咲き清流では咲かない、泥田で咲く、我々の有象無象の苦楽を共にしている所に咲くのです。蓮華の花に込められた意味を聞かせて頂きました。

そこで一度退席され、改めて講話が始まりました。

鐘の音を聞かせて頂き、AKB48の『365日の紙飛行機』の歌を流される。

「私はこの歌を聞くといつも幸せを感じるんです。朝のNHKドラマでこの歌を聞いた事がありますか？」と質問される。「AKB48が出てきた時、これまで英語を教えてもらっていない子供でも『エービーフォーティエイト』と言えますね。」そこで皆さん一緒に『エービーフォーティエイト』と唱和されました。英語の先生ならではの皆さんへの誘い方にどよめきと笑いが出ました。

平成28年2月18日(木) りょうえんカフェ一番星



野口公民館ふれあい大学ボランティア委員会の皆さんに、第4回目のりょうえんカフェ一番星(認知症カフェ)を開いていただきました。

温かい飲み物とクッキーをいただきながら、お喋りや昔懐かしい漫才のビデオ、どこに飛んでも危なくない紙パックとストローで竹トンボ等、ボランティアの皆さんが毎回趣向を凝

らして下さり、最後に歌を合唱して名残りを惜しみました。

今後も地域の皆さまと、認知症や身体の不具合などと折り合いをつけて逞しく生きておられる高齢者との交流を続けていきます。ぜひご参加ください。

続いて「何故幸せですか？どんな時が幸せですか？幸せの字はどんな字を書きますか？仕合わせと書く時もあります。」と話されご自身が教頭になった時、校長先生からしあわせとはどんな字を書くのかと教えられた話をして下さる。

し：為事・仕事＝体や頭を使って、働くこと（職業）

あ：挨拶＝此方から相手に近づく

わ：輪⇔和⇔話⇔ 羽＝羽ばたく

せ：世間・世の中 照らす

学校の職員の仕事を皆で合わせるのが仕合せだ。人を幸せにする僥倖と書く。生徒一人ひとり幸せにする。教職員の中の輪に入って話を聞いてあげて欲しい。そして生徒が羽ばたくようにそれぞれの進路に進み、世間の中に入っていき、世の中を照らすような子供に育てて欲しい。世間を照らすようなという事は正しい仕事をして生きなさいという事ですと指導を受けられた。

正しい仕事という所でインドのお釈迦様のお話をされた。お釈迦様はネパールの王子として生まれ、16歳で結婚、29歳の頃出家し35歳の時に悟りを得られました。29歳～35歳まで苦行をされ、心が穏やかなれば世間も穏やかになり、皆和やかになると悟られた。そしてどういふ話をすれば皆が心を傾けてくれるかと考えられ、一緒に苦行した5人の仲間と共に6人の輪になり、皆で正しい仕事（修行）をしなさいと説いて周られたそうです。

次に持参された白黒の2重念珠と中開きになっている扇子（中啓：ちゅうけい）を見せて頂く。扇子には裏表があります。喜びの裏には悲しみがあります。お葬式は悲しい時ですが、次の世代の喜びでもあります。お坊さんのいろんな持ち物にも喜び悲しみがありますと持ち物一つひとつにも深い意味がある事を教えて頂きました。

最後に皆に配られた『365日の紙飛行機』の歌詞を見ながら歌い、歌詞の中の今日がダメなら明日があると明るく歌っている所に共感を覚える方が多いです。『しあわせ・ふしあわせ』がありますが、仏教の言葉で不思議な事に幸せだと言います。いろんな事があっても、同じ事であっても何度も何度も聞きながら自分の中に不思議な思いをいっぱい入れる事が『しあわせ』なのではと話され、鐘を鳴らして講話を終えられました。

優しい語りかけとAKB48の歌が心に沁み渉るお話で、心が暖かくなりました。ありがとうございました。（岡村 照代）

平成28年2月29日（月） 加古川茶道協会「裏千家常盤会」 御茶会



毎年恒例、常盤会の皆さんに、お越しいただきました。

和菓子とお抹茶を、ゆったりとした時間で戴きました。

「昔はな～」という声や、「お抹茶が少ない」という方も…

お手前を目の前でじっくり見て、楽しい一時を過ごしました。

職員も、お抹茶を戴きホッと一息させていただきました。

『認知症は責任無能力者』で善いのだろうか？

J R 駅構内で 91 歳の認知症男性が遭遇した列車事故死において、J R 東海が起こした家族への損害賠償請求訴訟に対して、3 月 1 日最高裁が訴えを退ける判決を下しました。認知症の人を介護する家族にとって、ホッと安堵する判決であったと思います。

知性や理性が衰え認知・判断能力が減退した認知症の人は、法的には『責任無能力者』とされ、今回の事故では家族の監督義務者としての責任が問われました。高齢の配偶者が監督義務者に当たるか否か、或いは義務を尽くしたか否か、等々の法的論争はさて置き、91 年の永きを生きて認知症になったが故に、『責任無能力者』として最期を迎え、死後に他者の監督責任が問われるのは、高齢者の永い人生への正当な評価なのか否か？むしろ社会の対応が問われているのではないかと強く感じます。

老いて最期が近づいた時、その身を集団の中で他者に委ねるのは、人間のみが有する『本能的習性』です。他の動物は全て、群から離れて単身で土に還り、群の生育環境を護ります。「人間の社会」と「動物の群」との違いが『最期を仲間委ねるか否か』、に在ります。『仲間を看取る営み』を経験する中で人は思想と社会性を育み、人と社会は柔軟に変化し発展してきたのです。

人生 80 年時代の今、老いの身を委ねる要介護の期間が平均して 10 年前後にもなっています。人生 50 年の時代では大半がピンピン・コロリと最期を迎え、世は「無常観」を伝えました。科学・医学の進歩に伴い、ピンピンとコロリの間の暮らしが長くなり、命の差配も可能な様にも思える時代になりましたが、自然の摂理は超えられません。今回の列車事故と裁判は、要介護や認知症で迎える最期への評価を、社会に鋭く問い掛けているのだと感じます。

認知症は進行性の病気で根本的な治療は出来ないとわれ、確実な予防法もなく、90 才を超えると大半が認知症、とも言われます。老いの帰結として認知症になって遭遇する出来事は、主役として生きた人生の集大成として、社会の一員として行った活動と誇りに応える途として、ご本人に受容れて頂くべきではないかと感じます。「変化に柔軟な人と社会」を次の世代に引継ぐ責任を負う高齢者が「認知症に因る吾身の変化」を他者に委ねて、新たな変化にも柔軟に応じる為の思想と社会性を育む姿に対して、「責任無能力者」への『万全な保護と管理』に努める事よりも、ご本人に責任を引受けて頂く事が、尊厳ある最期に相応しい敬意の表し方ではないか、と思います。其れが職業としての介護に、『社会的な有益性と高い評価』を得る根拠にもなる、と信じます。

せいりょう園 渋谷 哲

【せいりょう園空き情報 平成 28 年 3 月 16 日現在】

- ・サービス付き高齢者向け住宅「自愛の家さくら」：空きあり
- ・サービス付き高齢者向け住宅「リバティかこがわ」：4 室
- ・ケアハウス：空きなし（バス・トイレ・キッチン付 24㎡）
- ・グループホーム：空きなし
- ・グループホームまどか：空きなし

〔問合せ先〕 せいりょう園 TEL(079)421-7156 / (079)424-3433